介護保険制度が介護者の生活時間に与えた影響

大澤 理沙（釧路公立大学）

本報告は、「社会生活基本調査」（総務省）の匿名データを用いて、介護保険制度の導入前後における介護者の生活時間の変化を記述的に分析したものである。予稿では多変量解析を含む分析枠組みを示したが、報告ではその前段として、単純集計にもとづく分析結果を中心に示した。

1．目的と背景

介護保険制度は、家族の過度な介護負担の解消を創設のねらいの一つとしていた。制度導入の効果については、介護時間（清水谷・野口 2005；菅・梶谷 2014；黒田 2014）をはじめ、介護負担感、健康状態、医療費、介護者の就業の観点から研究が蓄積されている。本報告の特徴は二つある。第一に、介護負担を時間の側面から捉え、介護時間数に加えて介護時間帯と介護以外の生活時間を分析対象とした。第二に、2016 年までのデータを用いて、導入後の変化をより長期にわたって把握した。

2．分析方法

1996 年（導入前）、2006 年、2016 年の調査票 A の匿名データを用いた。「ふだん家族の介護をしていますか」に対し、自宅内または自宅外で 65 歳以上の家族を介護していると回答した者を介護者とした。介護時間には、20 種類の行動分類のうち「介護・看護」を用いた。集計には集計乗率を用い、週全体の 1 日当たりの値を示した。平均は、介護者全体の平均（総平均時間）と、調査日に当該行動を行った者の平均（行動者平均時間）を区別した。また、自宅内介護と自宅外介護に分けた結果もあわせて示した。

3．分析結果

（1）介護時間数

介護者の総平均介護時間は、1996 年 55.6 分、2006 年 48.1 分、2016 年 41.1 分と減少した。行動者平均時間も 172.5 分、144.9 分、143.1 分と減少した（図 1）。調査日に介護時間が 0 の介護者の割合は、67.7%から 71.3%へ上昇した（表 1）。1 日 8 時間以上の長時間介護を行う者の割合は、行動者全体では 6.1%、4.1%、3.4%と低下した。しかし自宅内介護の行動者では、2006 年から 2016 年にかけて 3.4%から 3.8%へわずかに上昇しており（表 2）、長時間介護の縮小は限定的である。平均時間の減少は先行研究と整合的である。

（2）介護時間帯

時刻別の介護の行動者率は、とくに日中の時間帯で低下した（図 2）。自宅内介護では、1996 年から 2006 年にかけて大きく低下した一方、2006 年から 2016 年にかけての低下は小さかった（図 2）。深夜介護を午後 10 時～午前 5 時と定義すると、深夜介護を行った行動者の割合は 18.0%、16.2%、14.3%と低下した。一方、午前 0 時～午前 5 時に限ると

明確な低下はみられず、自宅内介護の行動者では 10.5%、11.2%、12.7%と上昇していた。日中の介護の減少は、介護保険サービスの利用による可能性がある。深夜の介護は、認知症高齢者の増加（池田 2014）などにより、サービスでは代替されにくい部分として残っている可能性がある。

（3）生活時間

生活時間を、個人的ケア、介護、家事労働、収入労働、その他の 5 区分と、より詳細な 11 区分で整理した。介護時間が減少した一方で、その他の時間は増加した。行動者平均時間でみると、睡眠は 445.8 分から 430.4 分へ減少し、身の回りの用事は 73.7 分から 83.8 分へ増加した。

4．今後の課題

以上の結果から、介護保険制度導入後、平均的な介護時間の短縮と日中の介護の減少が進んだ一方で、深夜の介護や自宅内での長時間介護は縮小していないことがわかった。これは、制度がサービスで代替しやすい介護を中心に家族の負担を軽減してきたことと整合的である。

ただし、これらは単純集計による記述的な結果であり、制度導入の効果を識別したものではない。観察された変化には、介護者の年齢・性別・就業状況・世帯構成などの構成変化も反映している可能性がある。今後は、本報告で変化を確認した介護時間数、介護時間帯、生活時間を被説明変数とし、介護者の属性を考慮した多変量解析と世帯単位での分析を通じて、制度の影響をより直接的に捉える。

加えて、報告時の討論では、制度改正の内容をより詳細に記述し、各時点の変化との関係を分析すべきであるとの指摘があった。今後は、介護保険制度の改正内容と各調査時点との対応を整理し、観察された変化を個々の制度改正と関連づけて検討する。

また、介護時間が減少するなかで介護者の睡眠時間が減少していた点については、検討を要する。まず非介護者との比較によって介護に固有の変化かどうかを確かめ、そのうえで深夜介護との関連を含め、個人的ケアに必要な時間の確保という観点から検討する必要がある。

参考文献

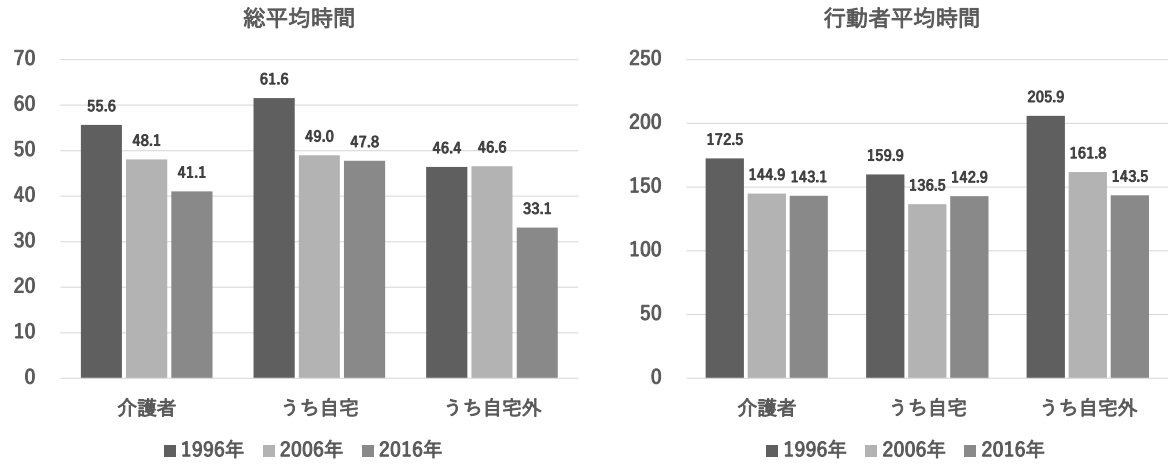
池田心豪（2014）「介護疲労と休暇取得」『日本労働研究雑誌』(643), 41-48.

菅万理・梶谷真也（2014）「公的介護保険は家族介護者の介護時間を減少させたのか？―社会生活基本調査匿名データを用いた検証―」『経済研究』 65 (4), 345-361.

黒田祥子（2014）「中間の年齢層の働き方 : 労働時間と介護時間の動向を中心に」『日本労働研究雑誌』56 (12), 59-74.

清水谷諭・野口晴子（2005)「長時間介護はなぜ解消しないのか？ －要介護者世帯への介護サービス利用調査による検証－」、『経済分析』175, 1-32.

図 1　介護者の平均介護時間（週全体、1 日当たり、分）



出典：総務省「社会生活基本調査」匿名データより作成。

注：集計乗率によりウェイト付けした値。

表 1　介護者の介護時間の分布（週全体、1 日当たり、%）

【介護者】	全体			自宅内			自宅外		
	1996年	2006年	2016年	1996年	2006年	2016年	1996年	2006年	2016年
0時間	67.7	66.8	71.3	61.5	64.1	66.6	77.5	71.2	76.9
0～2時間	17.5	20.6	17.7	22.0	22.7	20.4	10.4	17.2	14.4
2～4時間	7.6	7.3	6.3	8.9	8.2	7.5	5.4	5.8	4.9
4～6時間	3.5	3.0	2.6	3.9	2.9	3.0	3.0	3.2	2.1
6～8時間	1.8	1.0	1.1	1.6	0.9	1.2	2.0	1.0	1.1
8～10時間	0.9	0.7	0.6	1.0	0.5	0.8	0.8	0.9	0.3
10～12時間	0.6	0.3	0.2	0.6	0.3	0.1	0.5	0.2	0.3
12時間以上	0.5	0.4	0.2	0.4	0.4	0.3	0.6	0.6	0.1
うち8時間以上	2.0	1.4	1.0	2.0	1.2	1.3	1.8	1.6	0.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

出典：総務省「社会生活基本調査」匿名データより作成。

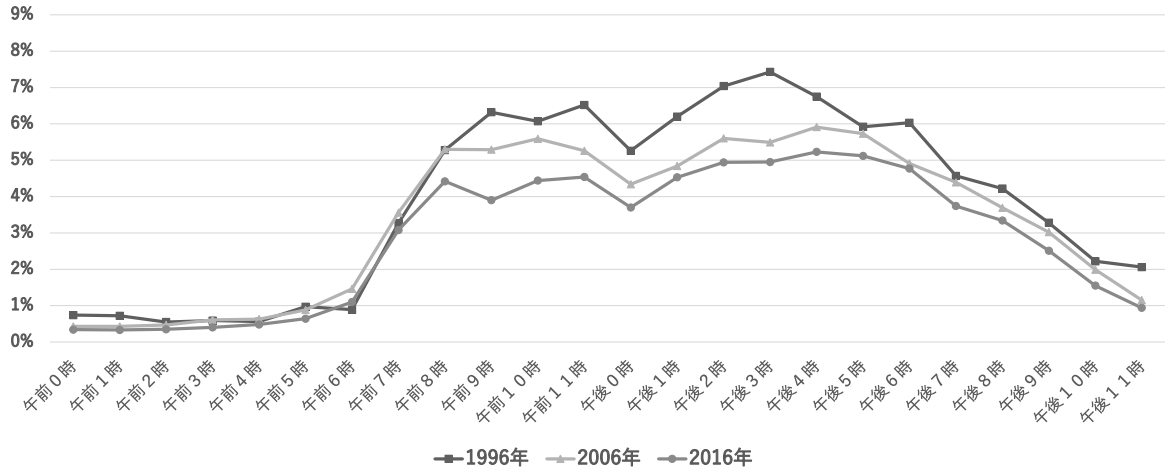
注：集計乗率によりウェイト付けした値。

表 2　行動者の介護時間の分布（週全体、1 日当たり、%）

【行動者】	全体			自宅内			自宅外		
	1996年	2006年	2016年	1996年	2006年	2016年	1996年	2006年	2016年
0～2時間	54.2	62.1	61.6	57.2	63.3	61.1	46.1	59.6	62.3
2～4時間	23.4	21.9	22.1	23.2	22.8	22.5	24.1	20.2	21.3
4～6時間	11.0	9.0	9.0	10.2	8.0	8.9	13.1	11.0	9.1
6～8時間	5.4	2.9	3.9	4.2	2.6	3.6	8.6	3.6	4.6
8～10時間	2.9	2.0	1.9	2.7	1.4	2.4	3.5	3.0	1.1
10～12時間	1.8	0.8	0.7	1.6	0.9	0.4	2.2	0.7	1.1
12時間以上	1.4	1.3	0.8	1.0	1.0	1.0	2.4	1.9	0.5
うち8時間以上	6.1	4.1	3.4	5.3	3.4	3.8	8.1	5.6	2.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

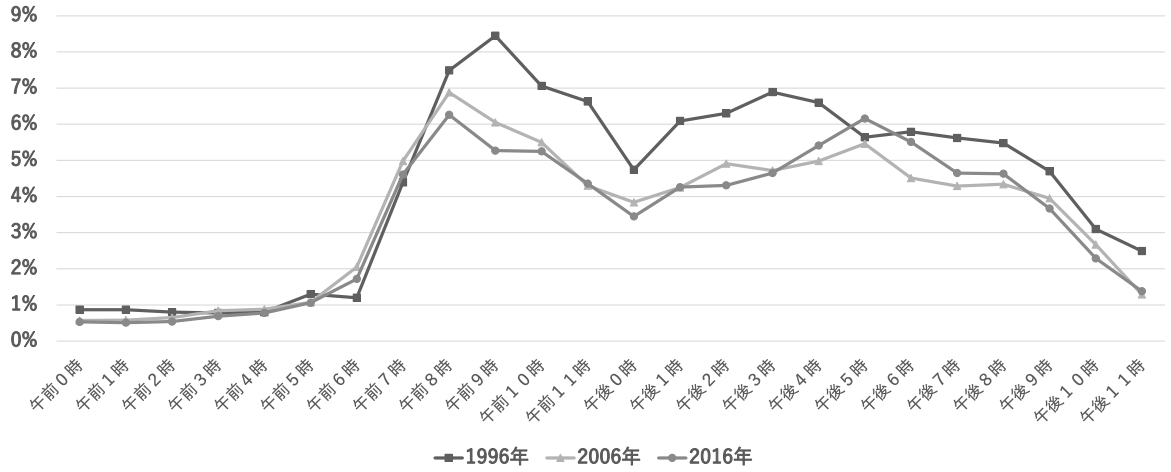
出典：総務省「社会生活基本調査」匿名データより作成。
注：集計乗率によりウェイト付けした値。行動者は、介護者のうち調査日に介護を行った者。

図 2　時刻区分別の介護の行動者率（介護者全体、週全体、%）



出典：総務省「社会生活基本調査」匿名データより作成。
注：集計乗率によりウェイト付けした値。行動者率は各時刻の最初の 15 分の値を用いている。介護は、行動の種類「介護・看護」の時間。

図 3　時刻区分別の介護の行動者率（自宅内の介護者、週全体、%）



出典：総務省「社会生活基本調査」匿名データより作成。
注：集計乗率によりウェイト付けした値。行動者率は各時刻の最初の 15 分の値を用いている。介護は、行動の種類「介護・看護」の時間。

表 3　行動者に占める深夜介護を行った者の割合（週全体、1 日当たり、%）
深夜介護の時間帯：午後 10 時～午前 5 時

【行動者】	全体			自宅内			自宅外		
	1996年	2006年	2016年	1996年	2006年	2016年	1996年	2006年	2016年
深夜介護あり	18.0	16.2	14.3	21.2	20.9	19.8	9.7	6.6	4.9
深夜介護なし	82.0	83.8	85.7	78.8	79.1	80.2	90.3	93.4	95.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

深夜介護の時間帯：午前 0 時～午前 5 時

【行動者】	全体			自宅内			自宅外		
	1996年	2006年	2016年	1996年	2006年	2016年	1996年	2006年	2016年
深夜介護あり	8.8	8.0	8.7	10.5	11.2	12.7	4.2	1.3	2.0
深夜介護なし	91.2	92.0	91.3	89.5	88.8	87.3	95.8	98.7	98.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

出典：総務省「社会生活基本調査」匿名データより作成。
注：集計乗率によりウェイト付けした値。行動者は、介護者のうち調査日に介護を行った者。深夜介護ありは、該当する時間帯に介護を行った者。

表 4　行動者の生活時間（週全体、1 日当たり、分）

【行動者】	全体			自宅内			自宅外		
	1996年	2006年	2016年	1996年	2006年	2016年	1996年	2006年	2016年
睡眠	445.8	438.9	430.4	448.1	445.7	437.1	439.5	425.2	418.8
身の回りの用事	73.7	77.5	83.8	74.1	76.2	81.0	72.7	80.2	88.7
食事	105.9	105.2	101.6	109.8	105.8	103.4	95.4	103.9	98.6
受診・療養	6.0	7.9	8.6	6.9	7.6	10.3	3.6	8.4	5.6
介護・看護	172.5	144.9	143.1	159.9	136.5	142.9	205.9	161.8	143.5
家事	187.1	188.3	182.2	201.7	198.0	190.3	148.5	168.5	168.4
育児	6.2	6.8	6.4	6.9	4.3	4.8	4.4	11.8	9.0
買い物	30.6	35.1	36.6	30.8	33.2	35.3	30.3	39.2	38.8
通勤・通学	8.8	8.7	12.3	7.0	6.3	11.7	13.5	13.7	13.4
仕事	108.2	96.1	102.2	104.9	93.0	97.3	116.9	102.5	110.5
その他	295.3	330.6	332.8	290.0	333.4	325.9	309.3	324.8	344.6
合計	1,440.0	1,440.0	1,440.0	1,440.0	1,440.0	1,440.0	1,440.0	1,440.0	1,440.0

出典：総務省「社会生活基本調査」匿名データより作成。

注：1) 集計乗率によりウェイト付けした値。

2) 調査日に介護を行った介護者（行動者）について、各行動の平均時間を示したもの。

3) 「その他」は、20 種類の行動のうち表に示した 10 種類以外の行動の合計。

4) 各行動の合計は 1,440 分。